

防災知識 今こそ覚えて

県災害ボランティア協が授業

第一学院高生が災害時対応学ぶ

県災害ボランティア協会の会員から災害やボランティアについて学ぶ授業が、第一学院高校金沢キャンパス（金沢市堀川新町）であった。生徒たちはボランティアの体験談を聞くとともに、カードゲーム形式の防災教材で災害時の対応について意見を交わした。（西浦梓司）



災害時に生じる課題について意見を交わす生徒たち
＝金沢市堀川新町の第一学院高金沢キャンパスで

一、二年生三十人ほどが参加。ボランティア活動の経験が豊富な水戸雅之会長（六巴）と、会員の松本吏香子さんが講師を務めた。水戸会長は体験談を基

に、災害ボランティアの心得を解説。倒壊した民家の写真を見せながら、「被災者にとってこの家は、がれきではなく『帰るべきわが家』。被災者の気持ちに寄り添って活動しなくてはいけない」と語った。

生徒たちは、災害時に生じる課題について、賛成か反対かをカードで示した上で意見交換するシミュレーションゲーム「クロスロード」も体験。松本さんの指導を受けながら、四、六人一組になり、困難な状況で

の対応を議論した。避難所に身を寄せている被災者の立場から「他の被災者の前で、食料の入った非常用持ち出し袋を開けられるか」という課題については、「自分や家族の命が大切だから開ける」とする意見が出た一方で、「負い目を感じる」「食料を持っていることがばれたくない」と反対の声もあった。一年の柳瀬賢也さん（二六）は「体験談を聞いて、自分もボランティア活動に関わりたいと思った。ゲームを通じて自分と違った意見を聞けて良かった」と話した。